

ハワイ研修

行先：アメリカ合衆国 ハワイ州 オアフ島

期間：2016/3/7~16

参加学生：都竹美由紀(2年)、野見山翔太(2年) 櫻井愛(3年・看護学コース)
 引率：山口麻衣(医学系研究科 公共健康医学専攻 大学院生)

渡航先での活動内容

・ハワイ大学でpublic healthの授業を受け、ハワイにおける公衆衛生の現状を学んだ。また、ハワイ大学における看護教育についてもお話を伺った。

・KKV(Kokua Kalihi Valley;低所得者層を対象として医療サービスの提供を行うNPO法人)の様々な活動に参加した。具体的には、KKVの喫茶店で実際に働きながら食から人々の体を健康に保つ取り組みを体感し、KKVの農園でハワイ特有の植物の有機栽培を手伝った。また、高齢者向けのプログラムや家庭訪問に参加、ハワイにおける高齢者ケアの現状について学んだ。

・ハワイ大学の学生、KKVのスタッフの方々それぞれ一緒に食事をとるなど、交流の時間を持った。その中で、ハワイ・日本・世界の健康問題や保健政策についても様々な意見に触れた。



目的を達成できたか

・public healthやnursing, home visit, elderly care, community careなど様々な分野にまたがる活動を見学・体験することで、今後の専門分野を決めるにあたっての糧になった。

・ハワイの高齢者ケアを学び、日本のケアと比較することができた。
 ・多様な人種・環境が共存するハワイの文化を体感することができた。

グローバルな視点とは何か

- ・比較できること。
- ・固定観念が崩されていくこと。
- ・相手の文化的背景も含めて理解していくこと。

将来の進路決定へどう影響したか

- ・public healthに対する興味が高まった。
- ・海外で学ぶことも将来の選択肢の一つとして生まれた。



目的以外に学んだ点、反省点

<ハワイ大学生の姿勢をみて>

- ・ハワイ大学の学生は自分の専門で学んでいることをはっきり他人に言える。知識とプレゼン力の双方が必要な行為であり、尊敬する。自分も他人に詳しく伝えられるようこれから勉強したいと思う。
- ・ハワイ大学の学生は教室での授業と並行して、コミュニティーに対する取り組みや研究に参加していた。(例えば、サモア系住民に対する食育) 学習が机上のものではなく、活用していく対象になっていた。

<反省点、その他>

- ・語学力の不足。英語での授業が理解しきれなかった。
- ・話を聞く時、リアクションを考えながら聞く癖をつけたい。
- ・語学力と同時に、(特に患者に対するアセスメントでは) 非言語的な領域も重要になってくることを体感した。



後輩へのアドバイス

- ・自分で想像していた以上の出会いがありました。ハワイ大学もKKVも本当に好意的な方ばかりでした。とても有意義かつ楽しい時間を過ごせると思います。
- ・お世話になる方への手土産に、東大グッズ(ペンなど)を持っていくことをお勧めします！

研修支援制度に望むこと

- ・視野と可能性の広がる、貴重な経験をさせていただきました。今後も続けていただければ幸いです。